

[概要版]

愛知県美術品等共同収蔵庫整備等事業に関する「基本的な考え方」

1. 基本的な考え方

- 愛知県では、愛知県美術館、愛知県陶磁美術館及び愛知県立芸術大学が、引き続き美術品等の保存及び収集活動等を継続できる収蔵スペースを確保していくため、2030年度完成目標に、全国初となる共同収蔵庫の整備を進めていく。
- 「まもる」「ひらく」「つながる」のコンセプトのもと、愛知の文化芸術の魅力を一層高める「美術館のバックアップセンター」を目指し、施設機能としては、県立3施設共同の収蔵庫として優れた収蔵環境を構築する他、各本館では見ることのできない「美術館活動の裏側」を公開することにより、作品の保存について学べる機会を提供する。また、当面の間未利用となる収蔵スペースを有効活用するため、共同収蔵庫の一部で県立3施設以外の作品も保存できる諸室構成とする。
- 愛知県美術品等共同収蔵庫整備等事業の実施にあたっては、民間のノウハウや創意工夫を取り入れながら、事業の効率化やさらなる魅力向上が期待できるPFI法に基づくBT0方式(※1)の導入を予定している。
- 「基本的な考え方」は、実施方針(※2)の公表に先立ち、県の考え方を整理したものであり、本事業の実施を周知するとともに、広く内容について民間事業者から意見を募り、実施方針に反映させることを目的としている。

2. 事業の概要

(1) 事業の基本的な枠組み

【事業方式】PFI法に基づくBT0方式

【予定地】常滑市奥栄町1-168他（元愛知県立常滑高校敷地）

【対象施設】共同収蔵庫

【事業期間】設計・建設期間：3年9か月程度（2027年度～2030年度）
維持管理・運営期間：20年

【事業範囲】特定事業及び任意事業により構成される業務を対象とする。
「まもる」「ひらく」「つながる」の3つのコンセプトを実現するほか、共同収蔵庫のさらなる魅力向上を図るための積極的な提案を期待する。

【特定事業】

- ・共同収蔵庫の統括管理、設計・建設、開館準備、維持管理・運営（教育普及業務）及び付帯業務とする。なお、開館準備及び維持管理・運営のうち、県立3施設の作品の保存は各施設の職員が行う。
- ・共同収蔵庫の供用開始後、当面の間未利用となる収蔵スペースを有効活用するため、共同収蔵庫の一部において、県立美術館の収蔵環境を活用した収益事業等を、付帯業務として想定する。

【任意事業】

- ・事業者は、本事業に係る維持管理・運営期間にわたり、事業区域内において、提案内容に基づき、必要に応じて任意に事業を行うことができる。

【事業者の収入及び費用負担】

〔特定事業〕

- ・特定事業に係る費用のうち、特定事業契約書に定められた範囲内の費用を県が負担し、それ以外の費用を事業者が負担することを想定している。
- ・県は、特定事業の業務の実施に係る費用を、サービス購入料として事業者に支払う予定である。ただし、付帯業務の実施に係る費用については、原則として事業者の負担とする。
- ・付帯業務として共同収蔵庫の一部未利用スペースを活用する場合、第三者から料金を徴収することができる。

〔任意事業〕

- ・任意事業に係る費用については、原則として事業者の負担とする。

（2）事業者の募集・選定

- 総合評価一般競争入札方式の採用を想定している。
- 応募者は、「応募企業」又は複数の企業によって構成される企業グループ「応募グループ」とし、選定後は、特別目的会社（SPC）の設立を想定している。

3. 今後の予定

2026年3月3日（火）正午：「基本的な考え方」に対する意見募集締切

2026年4月以降：実施方針公表、特定事業選定、入札説明書等公表、提案締切、落札者の決定、契約締結

※1 BT0 (Build Transfer Operate) 方式：事業者が自らの提案をもとに施設の設計、建設を行った後、県に施設の所有権を移転して維持管理・運営業務を行う方式。

※2 実施方針： PFI法に基づき、事業内容や事業者の選定方法等を定めるもの。